

第320回 日本体育大学長距離競技会

【出場結果】

実施日 : 4月26日(土) 10000m

4月27日(日) 5000m

会場 : 日本体育大学健志台陸上競技場

出場者 : 坪井 響己 三浦 剛 救仁郷 弓輝 下田 大翔

出場種目・出場者・リザルト

氏名	坪井	救仁郷	三浦	下田	坪井
種目	10000m	10000m	5000m	5000m	5000m
組	10組目	10組目	12組目	15組目	15組目
タイム	28'44"25 (自己ベスト)	28'44"89 (自己ベスト)	14'40"66	14'31"62	14'08"10 (自己ベスト)
順位	4/33	5/33	17/31	16/32	7/32

【レポート】

4月下旬を迎え、この時期は草木が芽吹き緑色に染まる季節となり、外でランニングをするには最適なシーズンとなりました。

陸上界でもトラックシーズン真っ盛りとなり、全国各地でトラックレースが開催される中、4月26日～27日に開催された日本体育大学長距離競技会に、当社期待となる2名の新人を含む4名の選手が出場しました。

初日に行われた10000m10組目には、今年からキャプテンとなった坪井、2週間前のレースで好走を見せた新人の救仁郷がレースに臨みました。



新人らしい勢いのある走りを見せた救仁郷

28分台の記録を狙う組だけあって、序盤から2分52~55秒/kmのハイペースながら集団は安定したペースを刻み、坪井、救仁郷も先頭集団の中盤あたりでレースの流れに乗ります。

5000mの通過は14分29秒と、28分台を狙うには絶好なペースでレースは後半へ。

レース後半に入っても安定したペースは変わらず、坪井、救仁郷ともに表情にも余裕が見られ、9000mの通過が25分59秒となり、ラスト1000mを3分掛かったとしても28分台で走れるペースでしたが、2人とも自己ベストの更新を目指して、気迫のこもったラストスパート争いに。

最後は坪井が先輩の意地を見せて、前方にいた救仁郷を抜き去ると、自身初の28分台となる28分44秒台で先着し、コンマ差で救仁郷も大学時代の自己ベストを更新する走りを見せてゴールしました。



坪井、救仁郷ともに28分台の自己ベスト更新！！おめでとう！！

翌日に行われた 5000m12 組目には三浦が出演し、三浦は先月行われた同大会で 14 分 31 秒台の入社後ベストで走っており、直近の練習でも良い走りを見せていたため、記録更新の期待が高まりましたが、序盤から先頭集団との距離を開けられてしまい、全体的にリズムに乗れないまま 14 分 40 秒台でのゴールとなりました。

今回は悔しい走りとなってしまいましたが、良い練習を積んでいるので、次戦では自己ベストに迫る走りを期待します。



狙っていた記録に届かず悔しさが残った三浦

15 組目には、前日の 10000m で 28 分台の自己ベストを更新し勢いに乗る坪井と、社会人初レースとなる下田が出演しました。

13 分台の記録を狙う組だけあり、前半から 2 分 50 秒 / km を切るハイペースで先頭集団は推移しましたが、坪井は集団の最後尾で様子を伺いながらピッチを刻み、下田は苦しい表情の中でも積極的な走りで集団の中盤へ。

3000m の通過は 8 分 30 秒台となり、後半のペースアップ次第では十分に 13 分台が狙えるペースでレースは進みましたが、ここで序盤から余裕のなかった下田が集団から離れ、坪井が一気に集団の前方に出て 13 分台を狙う展開に。

坪井は、4000m を 11 分 20 秒で通過し、ラスト 1000m で 2 分 40 秒を切れれば 13 分台の大台も見えましたが、僅かに届かず 14 分 8 秒台でのゴールとなったものの、見事に入社後ベストを更新する走りを見せました。

4000m 以降に完全に足が止まった下田は、14 分 31 秒台でのゴールに留まりましたが、積極的に集団に食らい付く気持ちのこもった走りは、次のレースでの巻き返しに期待が持てるレース内容となりました。



二日連続の快走を見せた坪井



本来の走りではなかったものの、積極的な走りを見せた下田

【総評】

今年度は、10000m28分台の記録を持って入社した救仁郷、下田の期待の新人が加入したこともあり、例年とは比較にならないほどチームの士気が高まった状態でシーズン序盤のレースを迎えました。

10000mでは実力通りの走りを見せた救仁郷に、キャプテンの坪井が最後まで食らい付き、自身の殻を破る大幅な自己ベストを更新したことは、チームとしても非常に収穫のあるレースとなりました。

5000mでも坪井は力を発揮してくれましたが、三浦、下田は共に本来の走りを今回のレースでは発揮することが出来ませんでした。

但し、レースを体感出来たことは大きく、次戦のレースでは今回の課題を克服して好記録につなげて欲しいと思います。

次戦は5月23日～25日に熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で行われる、東日本実業団陸上競技選手権大会となりますが、今回出場の無かった選手含め、ベストパフォーマンスを発揮出来るように、チーム全体のコンディションを整えて参ります。

引き続き、皆さまの温かい声援を宜しくお願い致します。

以 上